



“科学教育・理科教育の改善及び改革に関する理論的実践的研究”

教授 熊野 善介 (科学教育学・理科教育学)

1955年仙台生まれ、宮城教育大学時代に1年間、Macalester Collegeへ国費留学。1980年に筑波大学大学院教育研究科を修了し、1989年よりフルブライト全額奨学金を獲得し、1993年アイオワ大学大学院博士課程を修了し、Ph.D.を獲得。1993年静岡大学教育学部講師、1995年静岡大学助教授、2005年静岡大学教授、2009年附属静岡中学校長
2011年より第1期卓越研究者、2013年より第2期卓越研究者、2016年より第3期研究フェロー

研究概要

日本の文脈に対応した科学教育・理科教育の改善及び改革に関する理論的実践的研究を行っています。具体的には、構成主義学習理論の展開と科学論（科学史科学哲学と科学教育と科学技術社会論が中心）を基盤とした、科学・理科教育学研究やエネルギー教育研究、環境教育研究を展開しています。そして、これらを主軸とした科学・理科教育改善に関わる研究を展開しています。

さらに具体的には授業論、評価論、学習材論、カリキュラム開発論、生涯学習に根ざした科学教育論やエネルギー環境教育論を探究しています。特にアメリカ・カナダ等英語圏の科学教育改革に関わる比較教育論を得意分野としています。さらに、国際理解教育と科学教育学、特にJICAと連動したインドネシア等の開発途上国の科学教育・環境教育改革の支援プログラムに関わり開発してきました。

現在、具体的な国、県、市レベルの科学技術ガバナンスと連動させた科学技術分野の人材育成のための教育改革論に挑戦していると同時に、STEM（科学・技術・工学・数学の融合した）教育の日米の先端交流研究を目指しています。

